平成２９年度　公益社団法人　上伊那教育会

総研修会「仰望の日」

平成 29 年 5 月 19 日（金）　長野県伊那文化会館

【開会・全員合唱　上伊那教育会の歌「　仰　望　」　】

指揮者　唐澤史比古氏（作曲者）

【矢澤　淳　上伊那教育会長　挨拶（抜粋）】

今年は伊澤修二先生没後 100 年にあたります。教育の道に身を置くものとして，仰ぐべきものは何か，望むべきものは何かをしっかりと胸に刻み，着実に歩み続けなければなりません。

そこで，本年度のテーマを「一歩前進」としました。

平成 29 年度の事業推進にあたり，公益社団法人として 5 年が経過し，その基礎がほぼ固まったことをふまえ，各事業をさらに「一歩前進」させたいと思います。会員が旧上伊那図書館，そして現在の教育会館を基点として寄り合い，学び合いながら自己研鑽に励んできた研修事業の質の向上を図り，さらに充実発展させていくことを重点とします。

加えて，法人化に踏み切った当時の会員の思いを大切に引継ぎ，上伊那教育会が公益社団法人として未来に向かってあり続けていく方策を検討していきます。

さて，昨今は教員の質の向上をはじめとした諸々の教育課題が声高に叫ばれています。こんな時に，夢やビジョンを語っている余裕などない，とにかく具体的な施策だ，即効的に目に見える成果を出すことだという考えもあります。

しかし今こそ大事にしなければならないことは，私たちが問題解決の糸口を外に求めるのではなく，内に求めなければならないということです。今こそ，上伊那教育会がずっと追い求めてきた「子どもを

中核に据えた授業の構築と教師一人ひとりの授業力の向上」に立ち返ると共に，さらには教職員としての「プライドと自覚」を再認識していくことが必要だと考えます。私たち教師に課せられた使命は，子どもや保護者に寄り添う真摯な教師となるべく研究と修養を積むことであることを肝に銘じたいと思います。

このことを根底に据え，会員が「自ら求め　自ら学ぶ」とき，初めて自己の深化と教育会の発展があると考え，「自ら求め続ける教師の研鑽」と「公益性の追求」を柱に据え諸事業を推進してまいりたいと思います。

そして，それらの諸事業の主人公となるのは，ここにお集まりの 1,100 名を超える会員の皆様です。私たちは先生になりたくてなりました。夢を抱いて教職の道を選びました。その時の思いを忘れず研鑽を積み共々に学び合っていこうではありませんか。

【後藤　正幸　信濃教育会長　来賓祝辞（抜粋）】

皆様，おはようございます。お招きをいただき誠にありがとうございます。平成 29 年度上伊那教育会総研修会「仰望の日」が，このように盛大に開催されますことに心からのお祝いを申し上げます。また新たな公益社団法人としていよいよ 6 年目を迎えられました上伊那教育会が，矢澤淳会長様のもと確かに歩み出されておられますことに心からのお慶びを申し上げます。

上伊那教育会をはじめ会員の皆様には，信濃教育会が公益社団法人として将来にわたって確かに歩むためにこの数年来進めてまいりました様々な改革改善に，ご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰様で昨年度は第 130 回信濃教育会記念総集会松本大会の開催をはじめ，長年の大きな課題でありました会員減の歯止めを 10 年ぶりに実現することができました。信濃教育会の定款には郡市教育会と連携をもって組織すると謳われておりますが，まさに上伊那教育会の皆様のご理解とご支援のお陰でございます。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ところで信濃教育会は本年度も新規事業を立ち上げてございます。その名は「教育会集い事業補助」です。これまでの「教育懇談会補助」を見直し，補助金の増額も含め郡市教育会における研究や研修に対し補助を行うものです。多くの教職員が集い，人と人がつながり教育会の大切さを再認識する上伊那教育会の取り組みを応援してまいりますので，大いにご活用いただきたいと思います。

うまくいかないことの一切を決して他の所為にすることなく，子どもを前にして知る自らの不足と至らなさへの自覚をエネルギーに変えて，「人から人へ」と明るく元気にさわやかに声をかけ合いましょう。そして集いましょう。そして共に学び続けましょう。それこそ避けて通れない教師たるものの責任ではないでしょうか。そのためにも上伊那教育会と連携しながら，信濃教育会は会員の皆様をはじめ現場の先生方が，長野県の教師として，その主体性を発揮することができますように一層努めてまいります。明るく元気にそして爽やかに共に手をたずさえ，この道を歩んでいきましょう。

【会員発表　「きつだま２」をつくりあげた子ども達】

高遠北小学校　中島　元博　先生

参会者の感想

○　子どもたちの思いを大切にし，地域に根ざした活動を教えていただき，大変参考になりました。伊澤修二没後 100 年にも関わる内容でもあり，教育会の活動とつながりよいと思いました。

○　子どもたちが地域の伝統や文化と関わる中でどんどん探究心をふくらめていく姿，自分たちが作ったものが地域に認められる，地域の方に喜んでもらえる充足感，こういったものからふるさとを愛する心を創り上げていくすばらしい実践でした。

○　総合的な学習の時間の本来のあり方を示していただいたような発表で，若い先生方の参考になりました。「探求的な活動」「地域を巻き込む活動」とは，どうあったらよいか，具体的な事例で学ぶことがでました。

【会員合唱】

☆　上伊那教育会合唱団による合唱『未来へ』・『ほらね、』

☆　全員合唱『信濃の国』

参会者の感想

○　とてもすばらしい歌声でよかったです。自分たちで研修をして高め合った合唱を発表していただけるのはありがたいと思います。

○　「信濃の国」を知らない若い世代や県外出身者が増えてきているので，全会員合唱も大事だと思いました。

○　会員の先生方のパワーを感じました。

○　いつもながらすばらしい歌声でした。勤務の合間をぬっての練習に，頭が下がります。

○　全員合唱の「信濃の国」は素晴らしいです。普段歌う機会が少ないのでみんなで歌えることはよいと思いました。

【講　演】

私たちは，なぜ生まれてきたのか？

小説「あん」でハンセン病快復者の人生を
描いた意味

作家・詩の道化師　ドリアン助川　氏

参会者の感想

○　「あん」は興味を持って読んだ作品だったので，その執筆に至る過程は関心を持って聞けました。聞きやすい話し方で引き込まれました。

○　「この世を見るため，きくため，楽しむために私たちは生まれてきた」そのような視点をぜひ子どもたちにも伝えていきたいです。そのためには，子どもたちのつぶやきや気づきを大切に取り上げ，そのよさを認めてあげられる教師でありたいです。

○　あたり前に過ぎていく毎日が，本当はとてもありがたいことだということを改めて感じました。子ども達にも，それを伝えていくことが必要と感じました。

○　ハンセン病で苦しんでいる方々がいることは頭では分かっている気になっていた自分が恥ずかしくなりました。全ての人が人間らしく自分らしく生きることの難しさを感じるとともに，まだまだ自分の知らない世界があり，現実があるのだろうと思いました。このような機会にまた学んでいきたいと思います。

○　涙をふきながら聞きました。「役に立つこと」を求めすぎている自分は，もっといろんな人がいることを考え，存在そのものを認めなければいけないと思いました。

○　ドリアン助川氏の素晴らしい語り方に魅了された１時間半だった。私たちが教師として一人一人の前に立つための確かな人権感覚のあり様を見つめ直すことができた時間となりました。

○　映画原作者の方の講演はなかなか聞けないのでうれしい。ハンセン病についても自分の知らない部分が多くあり，特に療養所での生活についてなどは，理解を改めさせられました。

○　素晴らしい講演でした。聞き惚れてしまいました。先生の語り口調が，聞いている私たちに響きました。続編というわけではありませんが，まだまだお話がきっとあると思いますので，別の視点でお話ししてくだされば，是非拝聴したいです。

○　教育現場の方ではないが，第一線のプロとして活躍されている方の見方・考え方に大いに刺激を与えられ，学ばせていただきました。活躍される方には，その方独自の考え方があり，それを貫くことで大きな仕事につながっていくことが，決して偶然ではないと感じさせられました。ありがとうございました。